



DAN ENVIRONMENTAL DESIGN INSTITUTE

器@ベルリン日独センター 2024/10/14

ダンのスタッフ、あちこちの現場に出かけています

新年おめでとうございます。昨年は、関西のみならず、弊社スタッフが山形をはじめとする東北、中国、四国、そして離島と、各地の現場でお世話になり、誠にありがとうございました。中には現場でご迷惑をおかけしたお客様もおられました。お詫び申し上げますとともに、ご指導に感謝申し上げます。

さて、今号の対談は、サーキュラーエコノミーに関するデジタルメディア「Circular Economy Hub」を手掛けるハチ株式会社代表取締役 加藤佑さんと、同メディア編集長の那須 清和さんに登場いただきました。社会課題の解決と持続可能な成長を両立し、ポジティブな影響を社会にもたらすことを目指して活動するスタートアップのあり様は、「インパクトスタートアップ」と呼ばれるようになっていきます。ハチのお二人はサーキュラーエコノミーに取り組む過程の説明の中で、「面白い」と思っていて「共感して」「かつこいいな」と思っていて「という言葉が使われています。面白いと思った所に、ふわっと軽やかに、静かに熱く、信念を持って進んで行かれていますとお見受けしました。

私自身はバブル期に就職し、新人研修で「24時間戦えますか」を歌い踊った世代です。その後、幸いにも一子を得て、仕事の会合等から少しひっこんでいた時期がありますが、この間は、「面白いがる人」と真摯に向き合っていた時間でした。

子どもは、それはもう純粹に「面白い」とケラケラ爆笑し、同じことを繰り返して何度もやってもいらいたがり、「さらさら光る」ものや「見たことが無い何か」を見つけたと駆け寄り、未知なる何かを木の棒でつんと突ついたりします。無心で集めて持ち帰ったどんぐりから、白い何かの虫がうのようにと発生し、親は大慌て。でも、どんぐりを集めてみると、どんぐりから虫が出てくることもわかりません。そういう体験を経ると、うん、確かに人生は面白いことをまっすぐやってみることが大事よねと、半ば諦観めいた気持ちが生まれてきます。そして、創業者の吉野会長は、そういうえはいつも、面白そうなことを純粹に面白がっているなと思いつたりするわけです。

幸い、ダンのスタッフは何かを面白がる人が集まっています。演劇、音楽、漫画、陶芸、手芸、スペイン語、まち歩き、マラソン、筋トレ。学生時代を含めて、役者をする、漫画を描く、DJをする、陶器を焼くと、自分自身がプレイヤー側でもある経験は、どこかでひょっこりと仕事に活かせることがあります。

私は、好きなものを好きなまま社会人を続けられるダンが悪くないなと、時に思ったりします。その面白がりの精神こそが、「東北行きます」「離島に行つてみたいです」と新たなプロジェクトにチャレンジする原動力となり、弊社の担当プロジェクトの場所が各地に広がっています。

面白がりの精神を持つ若いスタッフともども、今年も皆様の厳しくかつ暖かいご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

2025年1月

株式会社ダン計画研究所 代表取締役 青木(宮尾)展子

JANUARY 2025

VOL.
36